



国際交流の特色

1949年にドイツミュンヘンに創設されたフラウンホーファー研究機構は、欧州最大の科学技術分野における応用研究機関です。ドイツ各地に75の研究所を構え、およそ29,000名のスタッフが活動しています。研究所の名称は、科学者であり、技術者であり、起業家でもあったヨゼフ・フォン・フラウンホーファーに由来しています。マックス・プランク研究所は基礎研究を中心としていますが、当研究機構は民間企業や公共機関向け、また社会全体の利益を目的として実用的な応用研究を行っています。その中でも応用情報技術研究所は、デジタルエネルギー、デジタルヘルス、デジタルサステナビリティなどのイノベーションを目指して、コンピュータサイエンス、社会科学、経営学、経済学、心理学、工学の約250人の学際的な研究開発チームが活躍しています。



フラウンホーファー研究機構応用情報技術研究所のGRANITEなど、ドイツから創造工学部へ来学された方々との研究交流会

教員からの声

大学における研究成果を社会実装するためには、いわゆる「デスバレー（死の谷）」と呼ばれる難関があります。1990年初頭からの「失われた30年」と呼ばれる期間では、日本発の革新的な製品は創出されていません。フラウンホーファー研究機構は、実社会への適用展開を加速するために創設されたドイツを代表する研究所です。ミュンヘン工科大学など、ドイツの主だった大学の敷地内には当研究機構のランチオフィスが設置されています。これは、大学の研究で創出されたシーズ技術をいち早く見つけ出して、世の中への橋渡しを迅速に行うためです。当研究機構には、日本の企業との共同研究を推進するためのGRANITEと呼ばれるプロジェクトが発足されています。2017年には、10数名のドイツの方々から創造工学部に来学されて研究交流会を開催しました。また、2021年には、国際会議EJEA（Europe Japan Expert Association）をFITなどと共催しました。これからのデジタルトランスフォーメーションによるイノベーションを志す学生諸君には、適した留学先だと思います。 創造工学部教授 石丸 伊知郎

交流実績（令和4年度～令和6年度）

年度	R4	R5	R6
受入・派遣			
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	1
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）	0	25	30
オンライン交流参加者（相手機関）	0	50	20